

【小学校 国語】の学習指導の改善・充実のポイント

- ポイント１ 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別させて書くことの指導をする。
- ポイント２ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することの指導をする。
- ポイント３ 文の中における主語と述語の関係を低学年から繰り返し指導をする。

調査結果の概要 [] 内の記号は、問題番号

領 域	結果の概要（◇：全国と比較してできている ◆：課題）
〔知識及び技能〕 言葉の特徴や使い方	◆ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。 〔2〕三ア ◆ 文の中における <u>主語と述語との関係を捉える</u> ことに課題がある。 〔3〕一
情報の扱い方に関する事項	◇ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことはできる。 〔2〕一(2)
我が国の言語文化に関する事項	◇ 読書の記録を読み返して、「読書を通して、自分の心にひびく言葉や今までになかった考えを見つけることができると気づいた」ことを捉えることはできる。 〔3〕四
〔思考力、判断力、表現力等〕 話すこと・聞くこと	◇ 資料を活用するなどして、 <u>自分の考えが伝わるように表現を工夫すること</u> に課題がある。 〔1〕二(2)
書くこと	◇ 目的や意図に応じて、 <u>事実と感想、意見とを区別して書く</u> など、 <u>自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること</u> に課題がある。 〔2〕二
読むこと	◆ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることに課題がある。 〔3〕二(1) 神
指導改善のポイント	
〔知識及び技能〕 <u>言葉の特徴や使い方に関する事項</u> 〔2〕三ア、 〔3〕一 「読むこと」や「書くこと」の指導事項と関連を図り、日常的に漢字を使ったり、<u>主語が何かを意識して文章を読んだり書いたりすること</u>で定着させる。 〔思考力、判断力、表現力等〕 <u>話すこと・聞くこと</u> 〔1〕二(2) 聞き手の興味・関心や情報量などを予想し、どのような資料を用意すればよいかを考える場面を設定する。具体的には、やりとりする前に、聞き手が疑問に思うことやさらに聞きたい内容を予想し、必要な資料を準備する。そして、<u>聞き手の状況に応じた表現を工夫</u>できるように場面を設定する。 <u>書くこと</u> 〔2〕二 伝えたいことを明確にし、客観的な事実を取り上げ、<u>文末表現に注目して事実と考えを適切に区別して書く経験を重ねる</u>。 <u>読むこと</u> 〔3〕二(1) 登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付け、それらを基に登場人物の性格や考え方を捉えていく。また、<u>「どのように描かれているか」という表現面にも着目して読む</u>ことで、物語の全体像を想像できるようにする。	

【小学校 算数】の学習指導の改善・充実のポイント『思考力・表現力を育てる』

説明文を3段程度で、根拠を示し筋道立てて書けるようにする必要がある。具体的には、1段目は、なぜその式になるか。2段目は、なぜその数値になるか。3段目は、計算の結果など。

ポイント1 計算の性質、図形の性質、二つの数量の関係、表やグラフ、図から分かることなど、「事実」を記述できるようにする。

ポイント2 問題を解決する見通しをもち、筋道を立てて考え、その考え方や解決方法、求め方、解決の過程など「方法」を記述できるようにする。

ポイント3 ある事柄が成り立つ理由や判断の理由を「AだからB」のように「理由」を記述できるようにする。

調査結果の概要 [] 内の記号は、問題番号

領 域	結果の概要（◇：全国と比較してできている ◆：課題）
数と計算	◇① $350 \times 2 = 700$ を基に 350×16 の積の求め方と答えを書く。 思考・表現 [2] (1) ◆② 折り紙口枚に38枚加えて62枚になる場面を式で表すことに課題がある。 知識・技能 [1] (2)
図 形	◆③ 直径22cmの球が入る立方体の体積の求める式を表すことに課題がある。 思考 [3] (3) 神 32.1% 全 36.5% ◆④ 説明例を参考に五角柱の面の数を書き、そのわけを説明することに課題がある。 思考・表現 [3] (4)
変化と関係	◆⑤ 道のりが等しく、かかった時間は異なる2人の速さについて、どちらが速いかを判断し、その理由を記述することに課題がある。 思考・判断・表現 [4] (3) ◆⑥ 3分間で180m歩くとき、1800mを歩く時間を考えることに課題がある。 思考・判断 [4] (2)
データの活用	◆⑦ 円グラフから、データの割合を読み取ることに課題がある。 知識・技能 [5] (1) ◆⑧ 折れ線グラフから必要な数値を読み取り、説明することに課題がある。 思考・判断・表現 [5] (3)

指導改善のポイント

「数と計算」

- ① 式や数の意味を考えさせて理解させる。また、基の式と与えられた式の意味を比較し、かけ算の性質と結び付けて積の求め方を説明させる。
- ② 式を言葉で表したり、言葉や図などの場面を式で表したりできるように指導する。式の意味と言葉や場面を結び付けて考えさせることで深く理解させる。

「図形」

- ③ 直径が22cmの球がぴったり入る立方体から、立方体の1辺の長さが球の直径と同じ長さになることを平面図形の円と正方形として捉えて、類推的に考えられるようにする。
- ④ 「三角柱の面の数は5つです。三角柱には、底面が2つ、側面が3つあるからです。」の説明文を参考にし、四角柱、五角柱と条件を変えて説明させる記述式の学習問題を用意し書き方を指導する。

「変化と関係」

- ⑤ $(\text{速さ}) \times (\text{時間}) = (\text{道のり})$ のように言葉の式を使って数量や関係を表したり、式の意味を読み取ったりする学習を。これは、 $(\text{長方形の面積}) = (\text{たて}) \times (\text{よこ})$ の単位量の幾つ分という考え方と同じであることを理解させることを指導する。
- ⑥ 時間と道のりの関係を線分図を使って帰納的に考えたり、表を使って2倍、3倍、4倍・・・10倍と比例の関係に気付かせて演繹的に考えたりできるようにする。

「データの活用」

- ⑦ 円グラフは、データの各項目が全体に占める割合について視覚的に捉えやすいという特徴や、円グラフの割合の読み取り方を目盛りの単位量を根拠に説明し合うことで理解を深め定着させる。
- ⑧ 本設問を用いて、3月の回数と4月の回数の折れ線グラフの傾きや重なりから読み取った特徴や傾向及び目盛りに着目して読み取った数値について、根拠を示して記述したり、相手にわかるように伝え合ったりすることで、思考力・表現力を高める。

【中学校 国語】の学習指導の改善・充実のポイント

- ポイント1 自分の考えが伝わるように、効果を考えて描写を工夫して書く指導をする。
- ポイント2 目的に応じて必要な情報に着目して要約する指導をする。
- ポイント3 学習した文の成分の順序や照応について、書くことの授業などで活用させて、定着させる。

調査結果の概要 [] 内の記号は、問題番号

領 域	結果の概要（◇：全国と比較してできている ◆：課題）
【知識及び技能】 言葉の特徴や使い方	◆ 「すぐに」という<u>修飾語の位置を直す</u>ことで「教えてくれるし」に係ることに明確になることを理解することに課題がある。 [3] 二 ◆ 短歌に用いられている<u>表現の技法</u>について理解することに課題がある。 [4] 一
情報の扱い方に関する事項	◆ 「自分とは異なる価値観に触れることもできますね」という部分が意見で、「おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されている」という部分が意見を支える理由であることを捉えることに課題がある。 [1] 三
我が国の言語文化に関する事項	◇ 行書の特徴を理解することはできている。 [4] 三
【思考力、判断力、表現力等】 話すこと・聞くこと	◇ 話合いの話題や展開を捉えながら、<u>他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめる</u>ことに課題がある。 [1] 四
書くこと	◇ 表現を工夫して物語の最後の場面を書き、<u>工夫した表現の効果を説明する</u>ことに課題がある。 [3] 四
読むこと	◇ 文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することに課題がある。 [2] 一 ◆ 目的に応じて必要な情報に着目して要約することに課題がある。 [2] 四

指導改善のポイント

【知識及び技能】

言葉の特徴や使い方に関する事項 [3] 二 [4] 一

生徒が書いた文などを用いて、語順や照応によって伝わり方がどのように変わるかを確かめ、自分が伝えたい内容に文を整えるなど、知識と活用場面が結び付く経験を重ねる。

情報の扱い方に関する事項 [1] 三

例えば、話合いの中での発言などを取り上げ、どこが意見と根拠かを確かめたり、根拠が意見を支えるものになっているかを吟味したりするなど、文脈の中で具体的に捉えるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

話すこと・聞くこと [1] 四

話合いの目的や話題を意識して、必要に応じて質問し合い、自分と他者の経験とは「どこが同じなのか」、「どこが違うのか」などを考えながら話合いを進めるなど自分の考えを形成する経験を重ねる。

書くこと [3] 四

用いる語句や表現が、文章の内容を伝えたり印象づけたりする上で、どのように働いているかを考えたり、伝えたいことが読み手に伝わっているかを確かめて推敲する経験を重ねる。その際、文の構成についても確認し、知識と活用場面が結び付く経験を重ねる。

読むこと [2] 一 [2] 四

説明的文章などの文章中に用いられている図は何を説明するためにあるのか、どの文とつながりがあるのかを考える場面を設定することで内容を理解していく。

また、文章の内容を理解するためにも、要約の力が必要となる。概略を理解するために文章全体の内容を短くまとめたり、情報を他者に伝えるために必要な部分を取り出してまとめたりするなど、目的や必要に応じて、内容や分量、方法が異なることを理解し、適切に要約できる経験を重ねる。

【中学校 数学】の学習指導の改善・充実のポイント『思考力・表現力を育てる』

説明文を根拠を示し筋道立てて書けるようにする必要がある。具体的には、1 段目は、なぜその文字（式）になるか。2 段目は、なぜその式（数値）になるか。3 段目は、計算の結果など。

ポイント 1 成り立つと予想される事柄や事実を「〇〇ならば、◇◇になる」のように「前提」と「結論」を記述できるようにする。

ポイント 2 事柄を調べる方法や手順を記述できるようにする。

ポイント 3 事柄が成り立つ理由を「〇〇であるから、◇◇である」のように「根拠」と「成り立つ事柄」を記述できるようにする。

調査結果の概要 [] 内の記号は、問題番号

領 域	結果の概要（◇：全国と比較的してできている ◆：課題）
数と計算	◆① 連続する 2 つの偶数を、文字を用いた式で表すことに課題がある。 知識・技能 [1] (1) ◆② 等式を目的に応じて変形することに課題がある。 知識・技能 [1] (2) ◆③ □に入る整数の和は、○に入る整数の和の 3 倍になることを統合的・発展的に考え、説明することに課題がある。思考・表現 [6] (3)
図 形	◆④ 2 つの三角形が合同であり、対応する辺の長さが等しいことを証明することに課題がある。思考・判断・表現 [9] (1) ◆⑤ 2 つの正三角形を基にできる合同な三角形を観察し、角の大きさが 30 度になることを求めることに課題がある。知識・技能 [9] (2)
関 数	◆⑥ ストープの使用時間と灯油の残量を表す式やグラフから、「強」と「弱」の場合の使用時間の違いを説明することに課題がある。 思考・判断・表現 [8] (2)
データの活用	◆⑦ 与えられたデータから、最頻値を求めることに課題がある。 知識・技能 [7] (1) ◇⑧ 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を 5 つの箱ひげ図を比較して説明することに課題がある。思考・判断・表現 [7] (2) ◆⑨ 2 枚の硬貨を同時に投げて、2 枚とも裏がでる簡単な場合の確率を求めることに課題がある。知識・技能 [5]

指導改善のポイント

「数と計算」

- ① 数値や文字、式の意味を記述し、説明し合う学習活動を行い、深く理解させる。
- ② 等式性質を使って式を変形する仕方の説明を記述し、伝え合う学習活動を繰り返し行う。
- ③ 参考例の説明文を読んで理解し、同じように□や○に簡単な整数を当てはめて、3 倍という性質を見付けさせる。また、見付けた性質は、参考を示された 2 倍の説明文「～は、… 2 倍になる。」と同じように「～は、… 3 倍になる。」と書けるように指導を行う。

「図形」

- ④ 本問題を用いて、証明するための方針を立て、それに基づいて証明する活動を取り入れる。具体的には、 $AQ = PB$ を導くために $\triangle QAC \equiv \triangle BPC$ を示せばよいことを明らかにし、対応する辺や角の大きさについて分かることを整理し、合同を示すために必要な関係を見いだして、他者に分かりやすく説明する、記述する学習活動を繰り返し行う。
- ⑤ 2 つの合同な正三角形を組み合わせて、新たにできる合同な図形を見付けて、対応する辺や角度の大きさを考えて、他者に分かりやすく説明する、記述する学習活動を繰り返し行う。

「関数」

- ⑥ 2 つの数の関係を示す式やグラフ及び文字や数値の意味を読み取り、説明する、記述する学習活動を繰り返し行う。

「データの活用」

- ⑦ 最頻値、中央値、平均値の意味を表などの資料を使って理解し、説明する、記述する学習活動を繰り返し行う。
- ⑧ 2 つ以上の箱ひげ図の比較は、箱ひげ図が右にずれることで、傾向を説明できるようにする。これは、2 つ以上の折れ線が右にずれる場合と同じであることと結び付けて理解させる。
- ⑨ 樹形図や表などを利用して起こり得る全ての場合を数え上げ、確率を求めることができるようにする。具体的には、表と裏の出方の全ての場合は（表、表）、（表、裏）、（裏、表）、（裏、裏）の 4 通りあることを理解できるように、樹形図や表を使って説明する、記述する学習活動を行う。